

マテリアリティに向けた事業の取り組み

## 商業・産業印刷

2023年3月15日

上席執行役員 プロフェッショナルプリント事業本部長

植村 利隆



アナログ印刷からデジタル印刷へのシフトにより、付加価値の高い印刷物が効率的に活用され、環境負荷が最小化される世の中を創る



# 製品開発ポリシー

1960年 複写機一号機  
湿式ジアゾ複写機  
「ミノルタコピーマスター」



1971年  
普通紙複写機  
「U-Bix480」



● 2003年  
高速デジタルカラー複合機  
「8050」



● 2015年  
シングルパスIJ捺染機  
「NASSENGER SP-1」



● 2016年  
IJ デジタル印刷機  
「AccurioJet KM-1」



● 2020年  
「AccurioPress C14000」



「誰もが使える」へのこだわり

デジタル印刷で自動化、省力化、スキルレスを実現

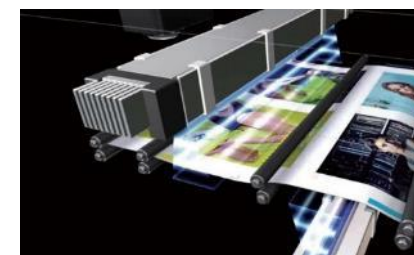
● 1999年  
インクジェット捺染機  
「Nassenger KS-1600」



● 2010年  
「bizhub PRESS C8000」



● 2017年  
自動品質最適化ユニット  
「IQ-501」



● 2022年  
ラベル印刷機  
「AccurioLabel 400」

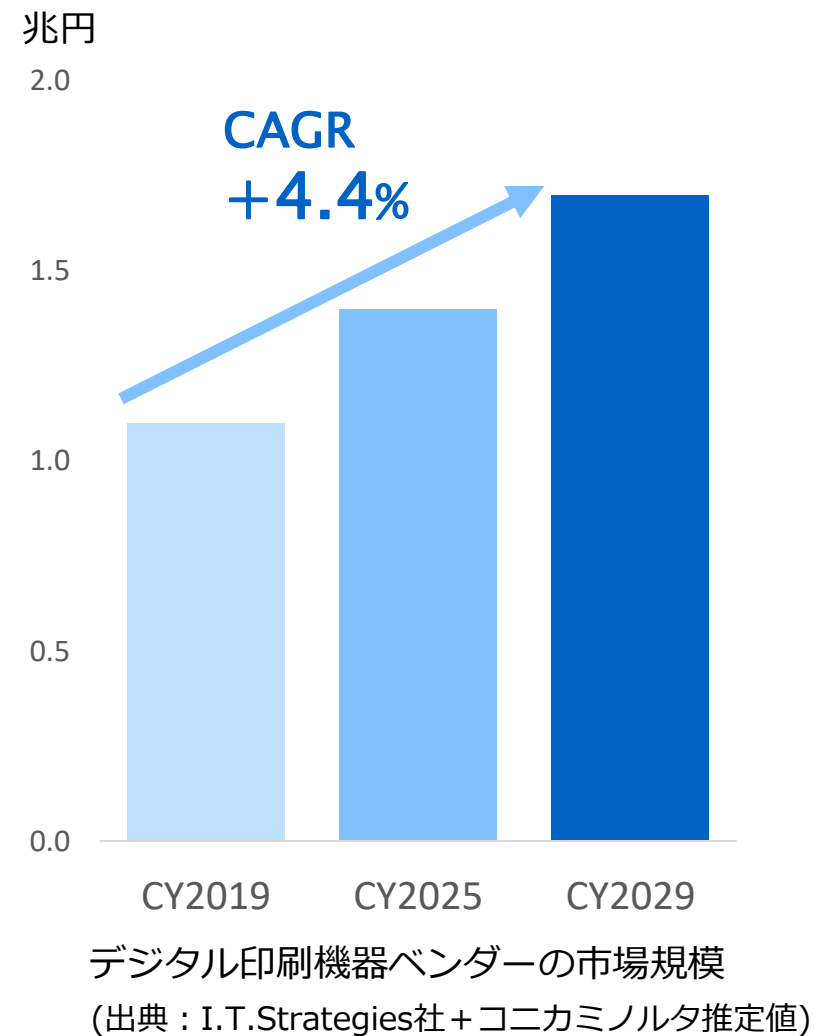
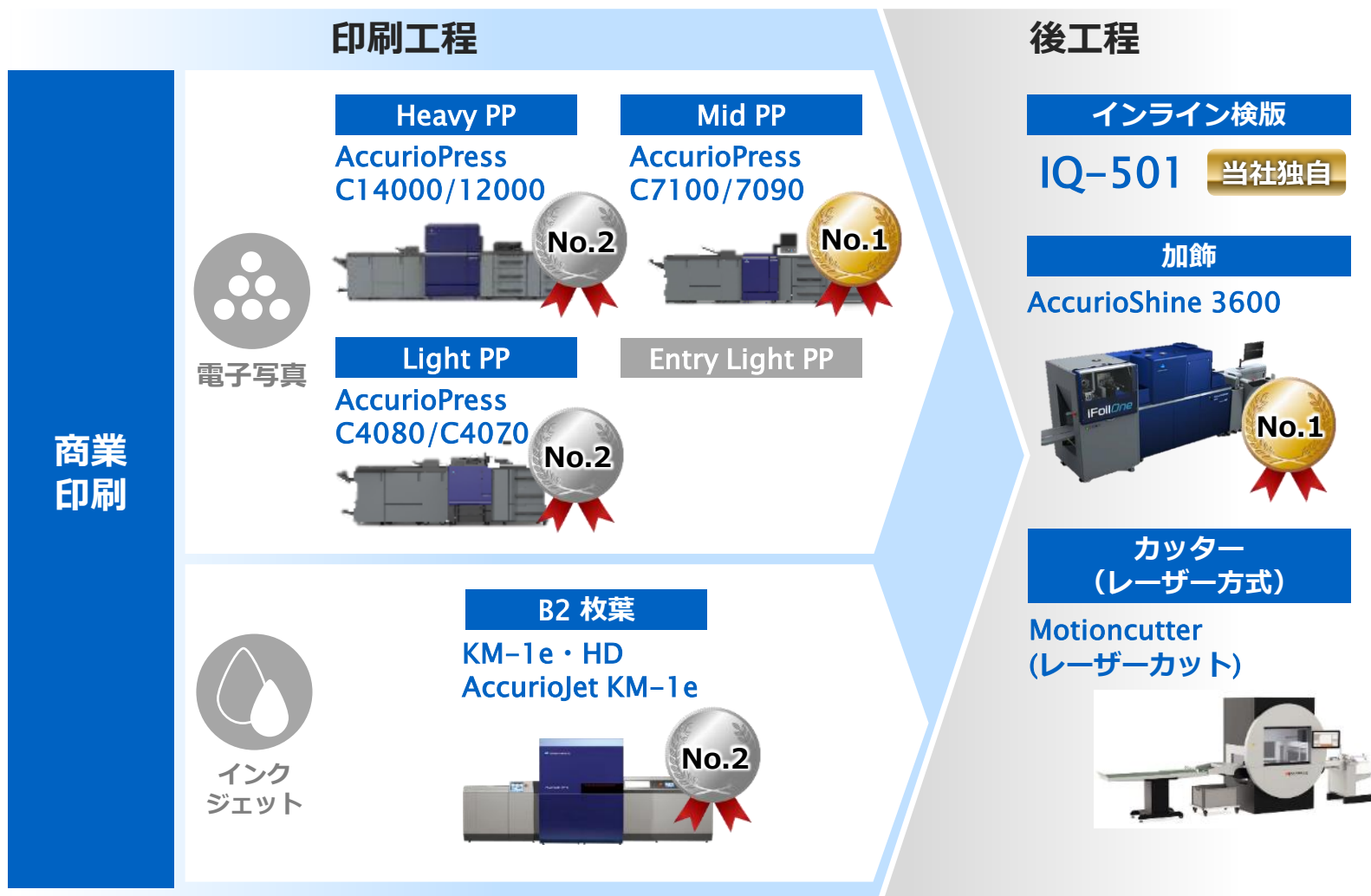


● 1987年  
簡易色校正システム  
「Konsensus」



# 商業印刷セグメント

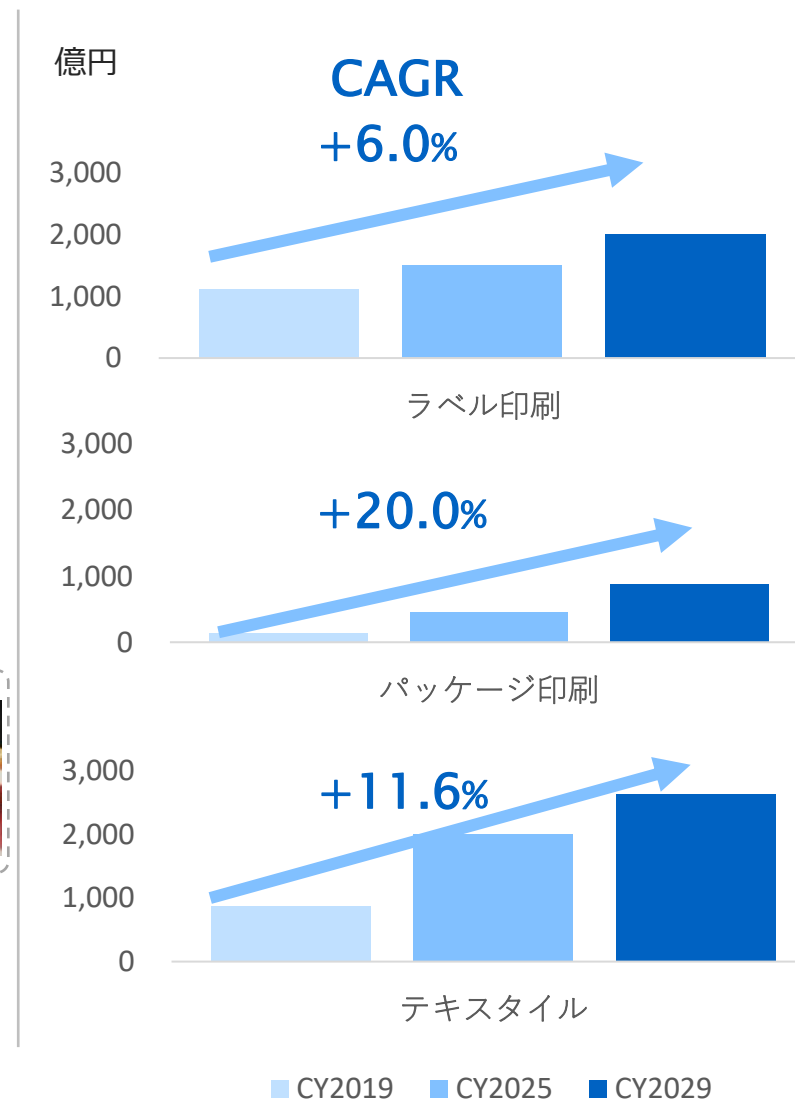
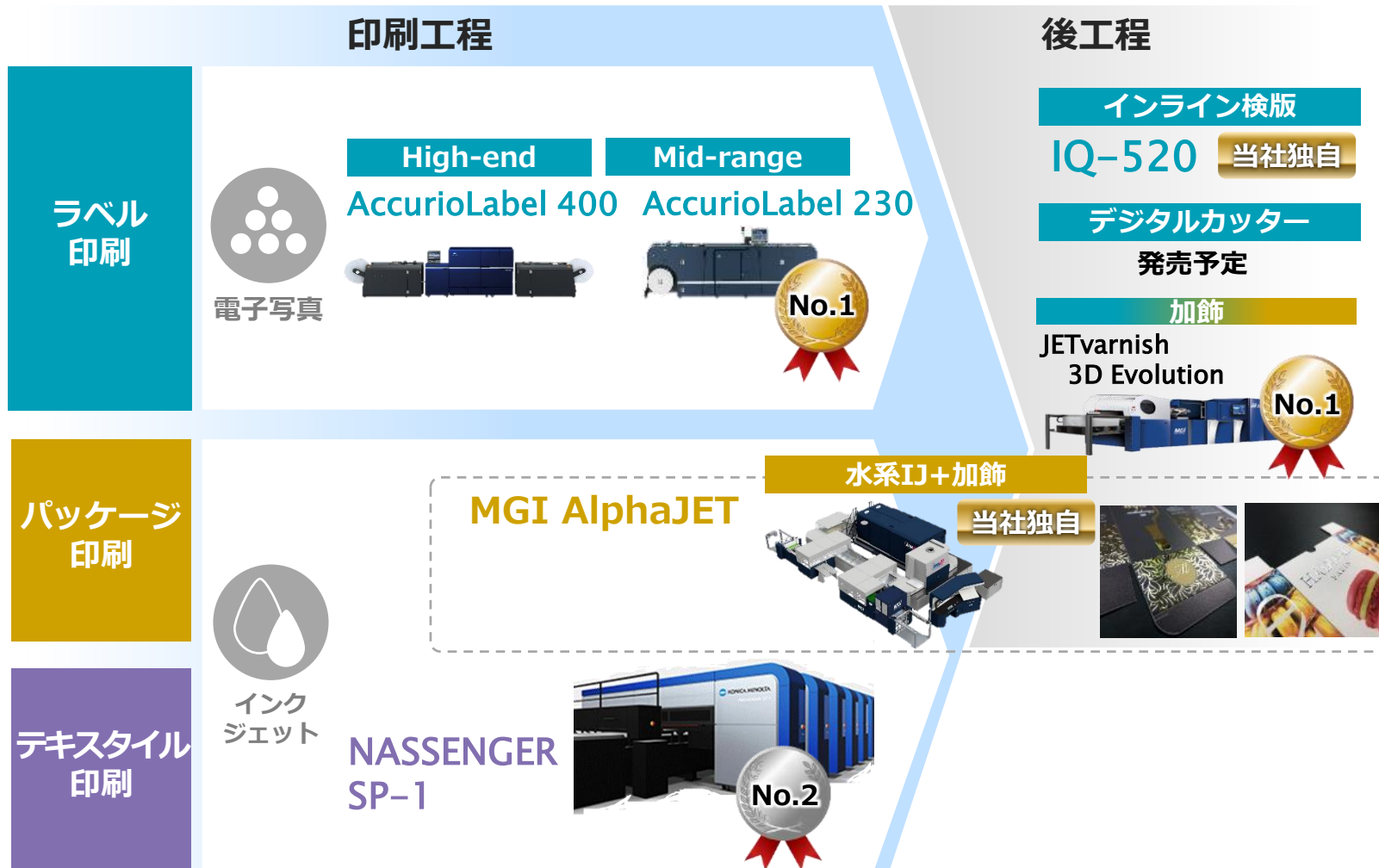
- デジタル印刷比率の向上で市場規模は拡大
- Mid Production Print, Heavy Production Printの増加でプリントボリューム (PV) は増加



順位出典：IDC社(FY21)+コニカミノルタ推定

# 産業印刷セグメント

- ラベル：デジタル印刷伸長
- パッケージ：後加工含めた全体合理化がデジタル化の鍵
- テキスタイル：廃水・廃棄の環境問題でデジタル化加速



順位出典：IDC社(FY21)+コニカミノルタ推定

デジタル印刷機器ベンダーの市場規模

(出典：I.T.Strategies社+コニカミノルタ推定値) © KONICA MINOLTA

## 激しいマクロ環境の変化

### ブランドオーナーの 購買パターンの変化

1. イベント多様化による小ロット、短納期化
2. マスから個へのマーケティング強化




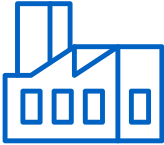


### 印刷会社の経営環境

1. 熟練労働者の確保が困難
2. 印刷材料費の高騰
3. 紙代の高騰
4. 顧客の小ロット、短納期要望

印刷会社でのデジタル印刷出力がコロナ前の  
**100-150%へと回復・増加**

## 環境への意識の高まり

1. 環境への配慮がブランド選択の材料に
2. CO<sub>2</sub>排出量削減に向けた動き
3. 廃棄削減への意識の高まり

	現状の課題	コニカミノルタが創る社会	マテリアリティ
<b>印刷物</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 画一的</li> <li>● 大量廃棄</li> <li>● 製造上の廃液廃材</li> <li>● 複数回の輸送</li> </ul>	<b>環境負荷の最小化</b> <b>印刷物特有の媒体価値の提供</b>	<b>気候変動への対応</b>  <b>有限な資源の有効利用</b> 
<b>印刷会社</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● デジタル化の遅れ</li> <li>● 働く人の疲弊</li> <li>● 人財確保が困難</li> </ul>	<b>合理性、創造性にあふれた 人気の職場へ</b> <b>(労働力不足、事業継続性)</b>	<b>働きがい向上 および企業活性化</b> 
<b>ブランド</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 印刷に対する限定的な期待値</li> <li>● 効果向上への知見無し</li> </ul>	<b>多様な個の心を動かす コミュニケーションを 当たり前</b>	

# 商業印刷事業におけるアナログ to デジタルの環境貢献



廃棄、CO<sub>2</sub>排出量の抑制：

- ① 刷版レス、予備紙 (損紙、ヤレ紙)、印刷物廃棄の抑制
- ② 省消費電力 (重合トナーの採用等)

VOCゼロ：  
クリーンな労働環境

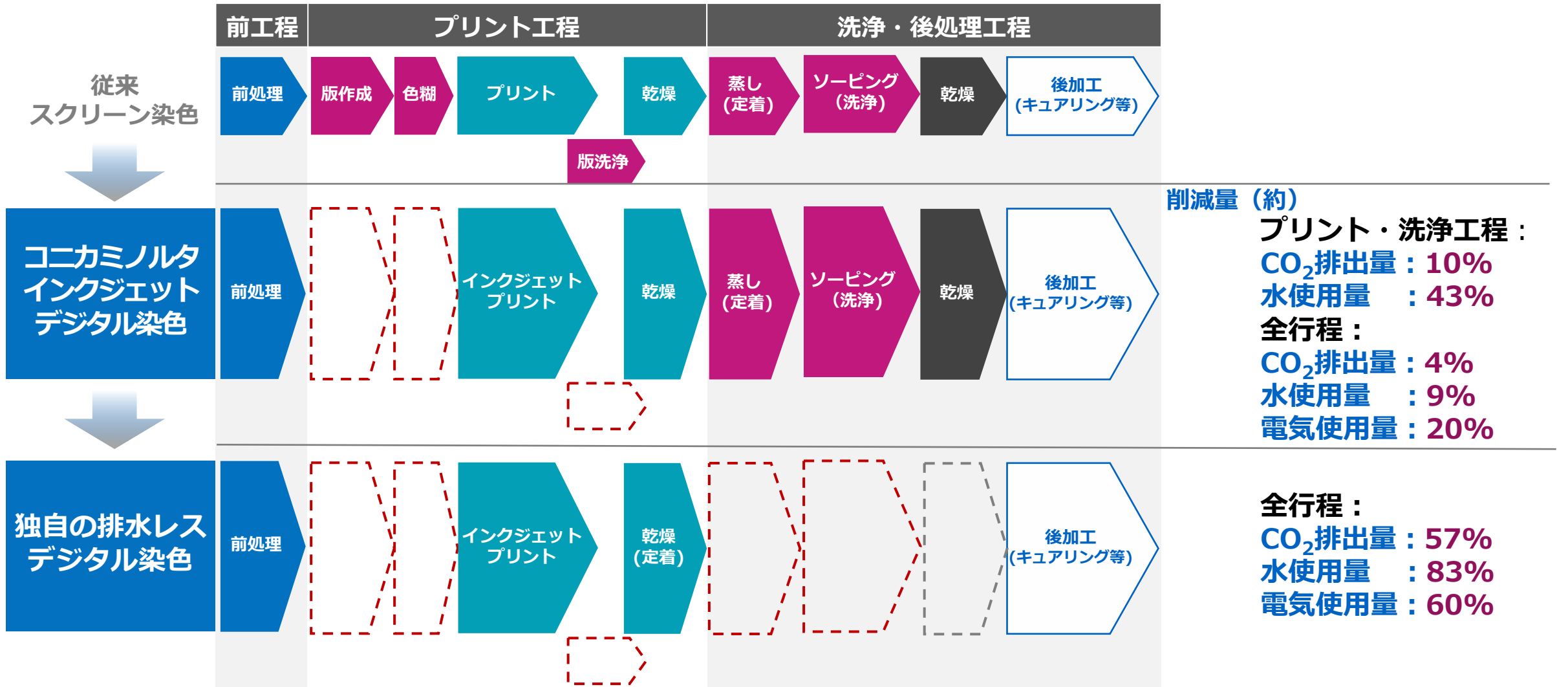
 プロセス減 + 資材減
  プロセス減



# テキスタイル事業におけるアナログ to デジタルの環境貢献



150  
YEARS



プロセス減  
+ 資材減



プロセス減

気候変動への  
対応



有限な資源の  
有効利用



働きがい向上  
および企業活性化



## コニカミノルタ プロフェッションプリント事業による社会貢献

アナログ to デジタルを妨げるラストワンマイルへのこだわり

納得する印刷物が仕上がるまで

1. オフセット品質再現へのこだわり
2. 印刷+後加工までのこだわり

プロが使いこなせるまで

1. 印刷オペレーター目線でのこだわり
2. ブランドオーナー目線でのこだわり



## 色の困りごと

- 色合わせ
- 色状態の確認
- 色変動
- 色異常時対応

## 色以外の困りごと

- 表裏見当の時間
- 検品の時間
- 新用紙への最適設定
- ミス・ヤレ



AccurioPress C14000

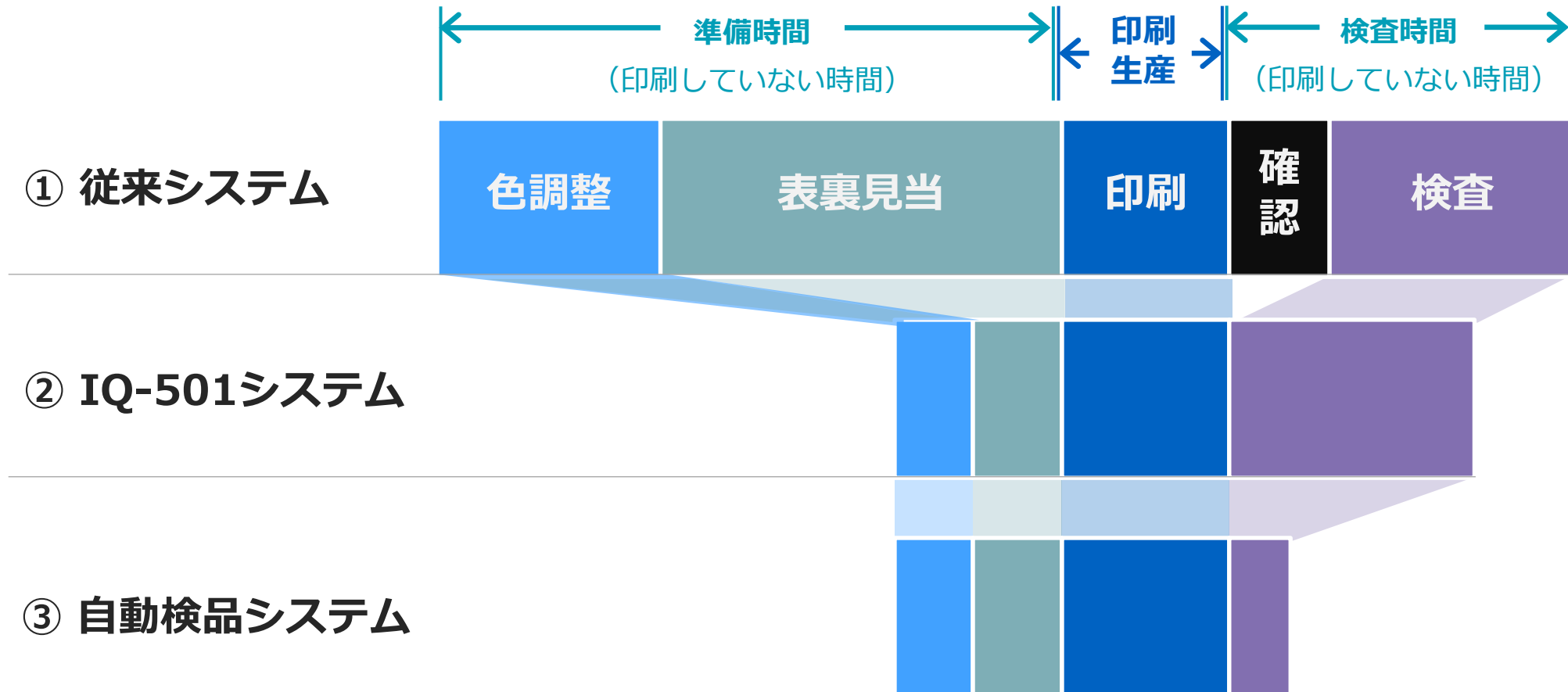
印刷機のダウンタイム  
印刷の付随作業を最小化

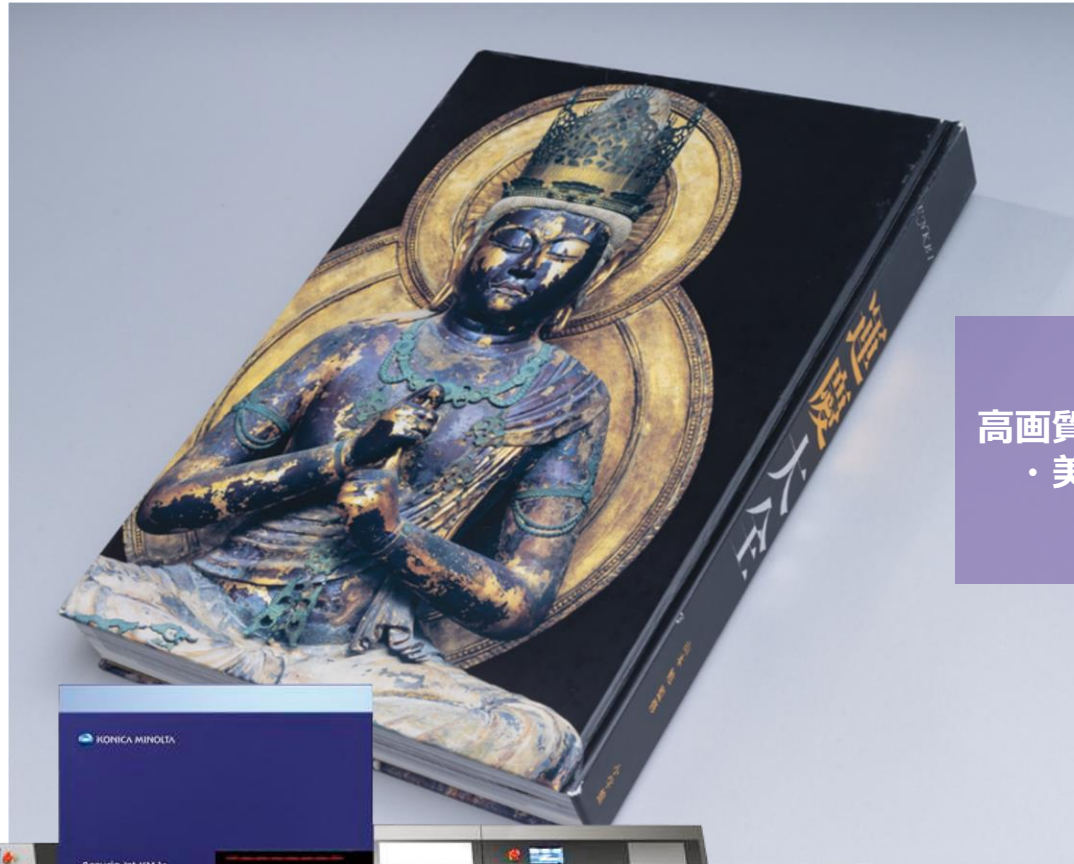


# コニカミノルタ独自の提供価値の進化： 独自ソリューションIQ-501による自動化メリット



## 印刷準備、確認/検査といった印刷以外の 作業時間（顧客に請求できない作業）の大幅削減に貢献





高画質写真集  
・美術本



ダイレクトメール  
・ Web to Print



パッケージ印刷



AccurioJet KM-1e

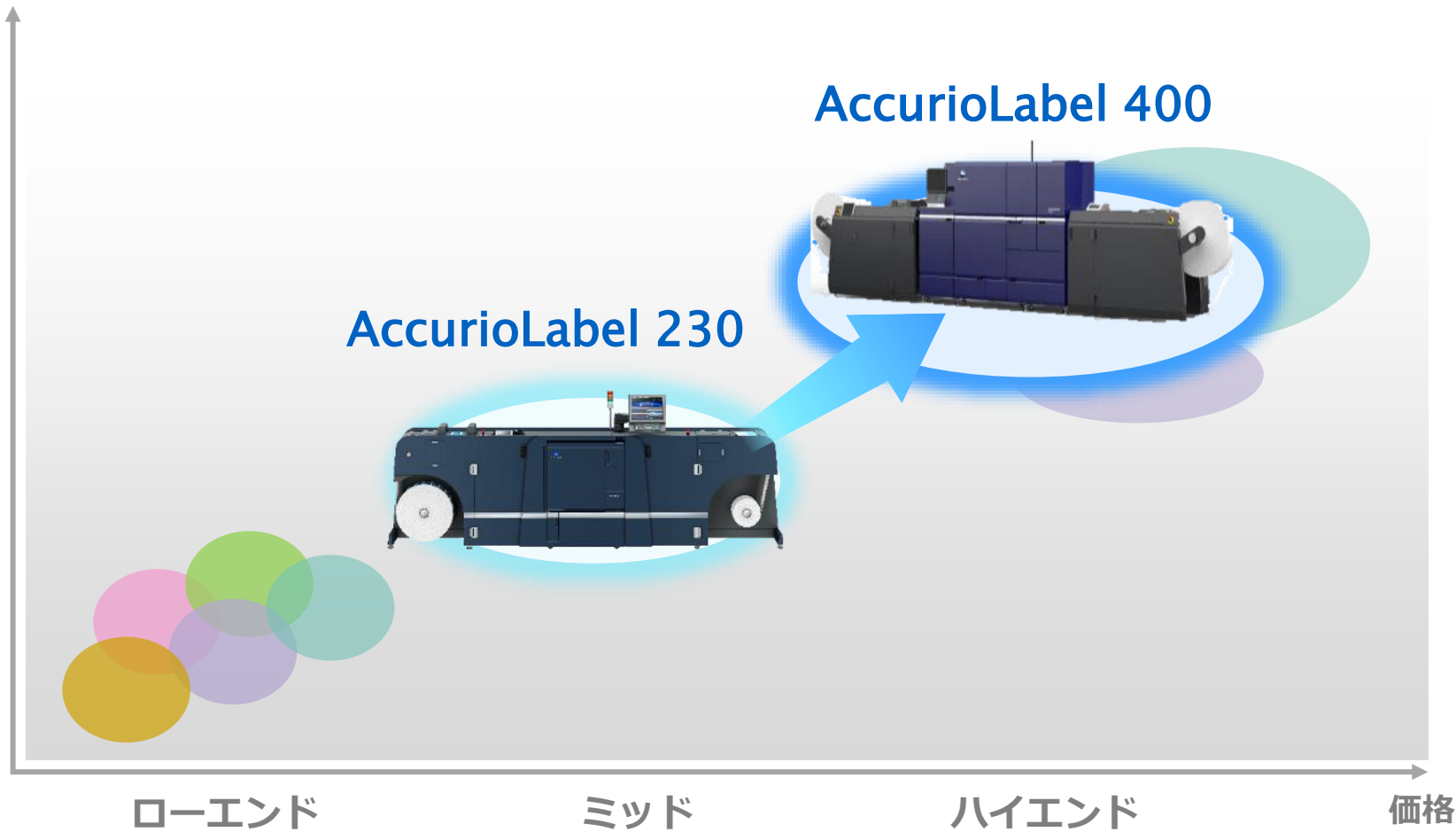
## 必須となる6要素を満たす

- ①生産性
- ②メディア多様性
- ③フォーマットサイズ
- ④画質
- ⑤両面对応
- ⑥経済性



- ラベル業界待望の「ミッドレンジ」のデジタル印刷機を電子写真技術で実現
- お客様の課題であった自動化、効率化、スキルレス化を実現した「ハイエンド」機の投入

生産性



# コニカミノルタ独自の提供価値 4 : パッケージでのアナログ to デジタルの課題を解決するゲームチェンジャー AlphaJET



## ● 産業用印刷業界初のファクトリー4.0ソリューション



用紙



4色印刷



スポットニス  
平面 & 厚盛ニス



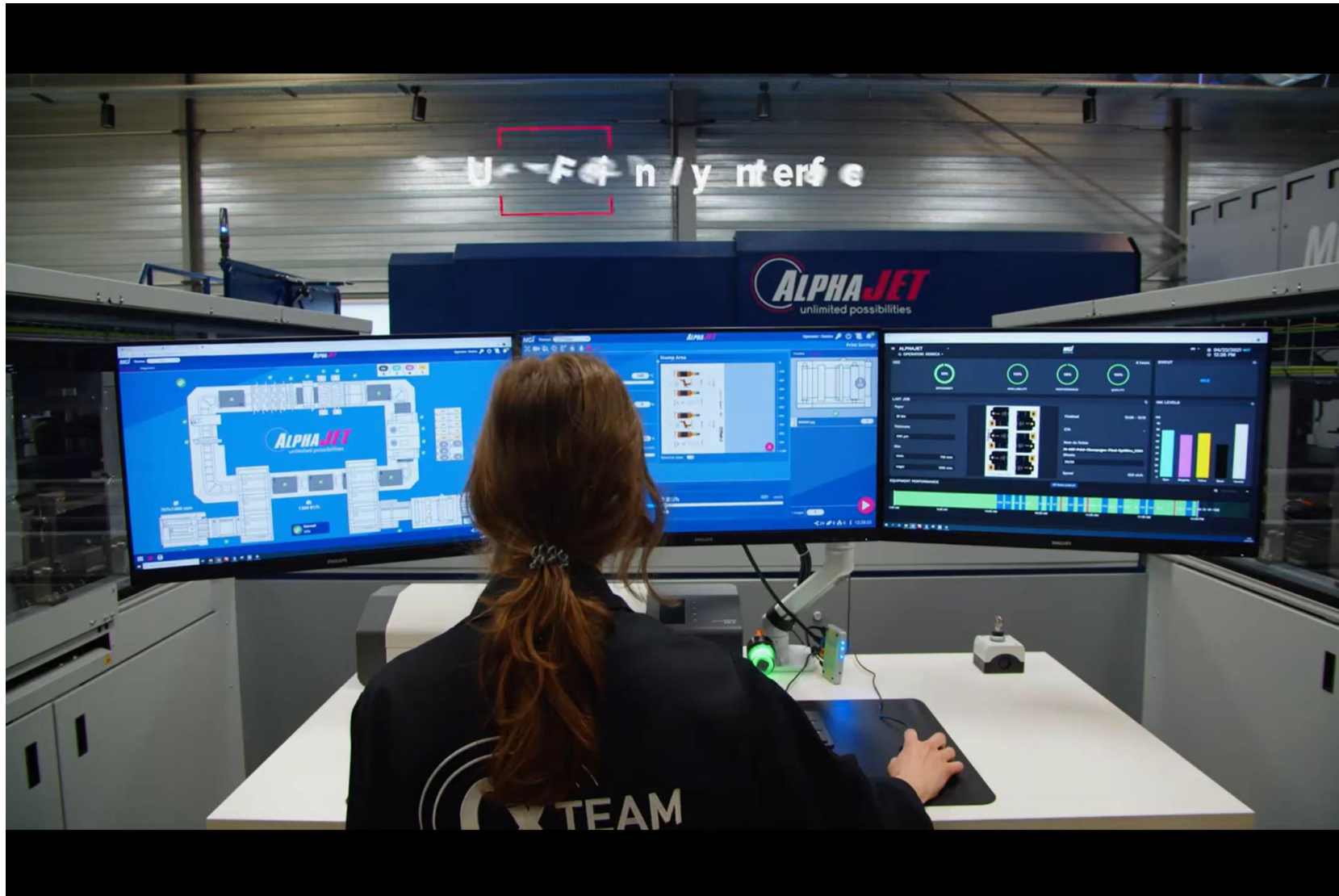
箔押し  
平面、厚盛 & エンボス



印刷、加飾  
ワンパス搬送

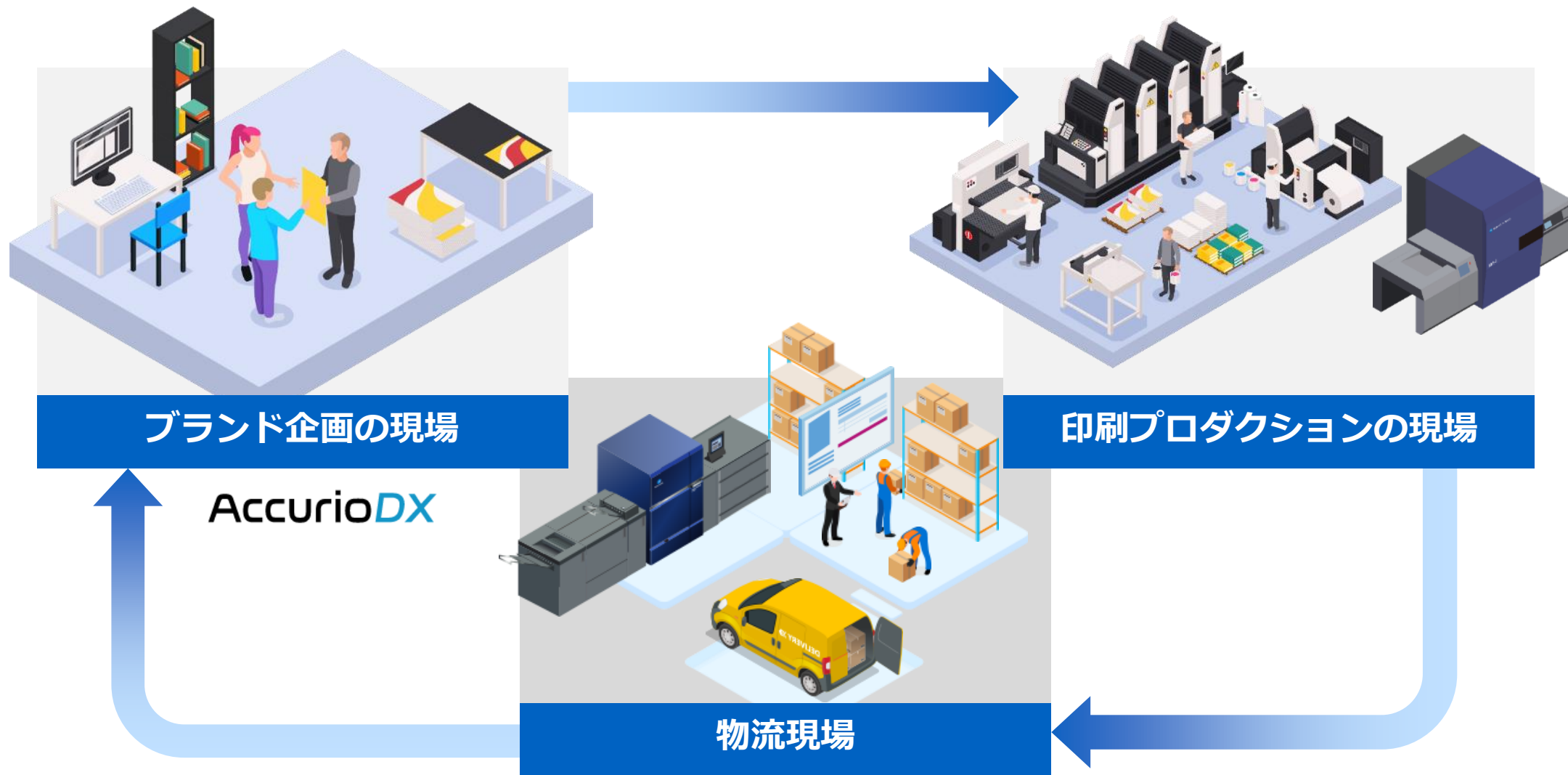


# コニカミノルタ独自の提供価値 4 : パッケージでのアナログ to デジタルの課題を 解決するゲームチェンジャー AlphaJET





# デジタル印刷を扱う「プロ」が、使いこなす喜びにこだわる



結果として、あらゆる場所において印刷物のサプライチェーンが変わり始め、  
私たちが描く社会の実現に向けて動き出している



**KONICA MINOLTA**

**150**

---

**YEARS**

# Appendix



- 商業・産業印刷機セグメント (P4) :
  - Entry Light PP (Entry Light Production Printer) : 月間印刷量10-30万枚、主に大企業の集中印刷室向けの低価格帯商品
  - Light PP (Light Production Printer) : 月間印刷量10-30万枚、商業印刷向け商品
  - Mid PP (Mid Production Printer) : 月間印刷量30-100万枚、商業印刷向け商品
  - Heavy PP (Heavy Production Printer) : 月間印刷量100万枚以上、商業印刷向け商品
  - B2 枚葉 : B2サイズのインクジェット印刷システム。オフセット印刷機の代替用途等で使用する商業印刷向け商品
- CAGR (P4-5) : Compound Average Growth Rateの略。一定期間における売上高や営業利益の各年成長率のこと
- VOC (P8) : 揮発性有機化合物、VOC(Volatile Organic Compounds)の略  
蒸発しやすく(揮発性)、大気中で気体となる有機化合物(化学物質)の総称。主なものだけでも約200種類ある
- ヤレ/ヤレ紙 (P8/P11) : 印刷物を作る過程でムダになってしまった用紙。色合わせ・位置合わせなどの過程で生じる。
- ファクトリー4.0 (P15) : インダストリー4.0(第4次産業革命)が提唱する生産ラインのIoT化による製造業のスマート化。「第一次産業革命」(18世紀。人力・馬力から蒸気機関に移行)、「第二次産業革命」(20世紀初頭。ベルトコンベアによる流れ作業による大量生産)、「第三次産業革命」(1970年代。組み立て工程に産業ロボットを導入したFA化)の次にくる、従来の自動化とは全く異なる完全自動化を意味する。生産の「前工程」から「後工程」までを一気通貫に繋ぎ、エンド・トゥ・エンドのプロセス自動化を図るもの。